
関西大学における BYOD のこれから

インフォメーションテクノロジーセンター所長
経済学部教授 谷 田 則 幸

新型コロナウイルス感染症の勢いもようやく下火となり、本学においても新年度の始まりから、コロナ対策の非接触式体温計やパーティションなどが徐々に姿を消し、5月8日のインフルエンザと同じ5類感染症への移行に伴い、学内外問わずマスクを着用しない人の割合が少しずつ目立つようになってきた。

今回のコロナ禍は多くのマイナス面が多いことは疑いようのないところであるが、こと大学生のコンピュータリテラシーに関して見れば、オンライン授業のための Zoom、講義資料の入手やレポート提出のための LMS、Office ソフトウェアの利用など、必要に迫られてのことかもしれないが、ずいぶんと進化したように思う。これらに関しては、教員側も例外ではない。

さて、本号には二篇の玉稿を頂戴し、期せずして、いずれも BYOD にも関連するものであった。松田剛氏の「心理学専攻の学生における情報端末利用状況の推移 — コロナ禍前後の比較 —」では、2019年のコロナ禍前と2020年のコロナ渦中を比較し、PC の所有率に関して 63.4% から 92.4% に大きく上昇し、それは2021年以降にも 92% 以上の数値が維持されていることが示されている。また、榊原雄一郎氏の「経済学部における BYOD の導入について」でも、2022年度からの経済学部における BYOD 本格的導入の準備として行われた「BYOD アンケート」（2021年12月から翌年1月12日の期間で実施）において、BYOD に対応可能な学生が 98.1%（2021年度入学生）、93.6%（2022年度入学生）という数値は、松田氏の調査とも符合する。このように、現時点でもほぼ全ての学生が BYOD に対応可能な状況にあるが、経済的な理由等で PC の購入が困難である場合には全学の PC 貸し出し制度（授業支援ステーションが運営）も存在する。それに加え、PC 忘れや、一時的に PC が故障した学生を対象としたケアも必要であり、経済学部独自の PC 貸し出し制度は、今後 BYOD 本格導入を考えている学部には大きなヒントになるであろう。

関西大学における BYOD 化は、教育推進部の主導のもとに「推奨」という形で進められている。前述のように、コロナ禍前と比較して、PC 所有率の上昇、学修に伴うコンピュータスキルの向上が示されているが、その二つには深い関わりがあるように思う。スキルの向上

には、繰り返すことにより慣れることも大きく寄与すると思われるが、自身のコンピュータ環境で高頻度で繰り返し様々な処理にあたることは、十分に「慣れ」につながるであろう。関西大学は大規模な大学であり、全学統一でBYOD化ということにはならないだろうし、またそのようにする必要もないだろう。学生自身が、BYODにメリットがあることに気づき、それが広まれば自然とBYODになっていくように思う。BYODの学生が増え、継続的なネットワーク増強にITセンターが追われるようになればと思う。少し楽観的に過ぎるかもしれないが。

また、ITセンターでは、各学舎のPC教室のリプレースにも関わっているが、その際には、各学部にもどのように変更したいかをお尋ねしている。従来通りのPCが並んだスタイル以外には、アクティブラーニングクラスルーム（以下、ALC）、をご意見として多く頂戴する。

実際に、千里山の4学舎と3つのサテライトのうち、PC教室からALCや可動式什器を導入した一般教室に変更となったのは、6教室に及ぶ。さらに、語学系のLL教室やCALL教室からの変更を加えると、それらは11となり、学修者が能動的に学ぶ環境の整備が、充実して来たと言える。ALCにはグループワークが行いやすいホワイトボードやプロジェクタが多数あり、机・椅子も可動式であるため随所で個別にディスカッションができるような設計になっている。筆者も、今年度のゼミナールではALCを割り当てていただき、ゼミナールでの従前からのBYODと相まって、ストレスなく利用できている。以前は、PCが設置されていたため、電源コードがフロアに散乱し、グループごとの議論にも支障があった状況とは雲泥の差である。また、初等中等教育で能動的に学修することを体現してきた学生にも、このスタイルの方が合うようである。

もちろん、従来型のPC教室を否定するものではない。部分的には、そのような教室形態が望ましい場合があることも承知している。むしろ、それぞれの時代にあった形、学部が目指す講義内容に合った形で、必要な教室のスタイルをその都度見直し、それらを組み合わせながら柔軟に対応していくのが良いように思う。

BYODとアクティブラーニングには、本来直接的な関係性はないが、整備されたALCなどで、多くの学生がBYODによるPCを駆使して、活発な議論をする様が、近い将来の「普通」となることを願ってやまない。